

Refresh!!

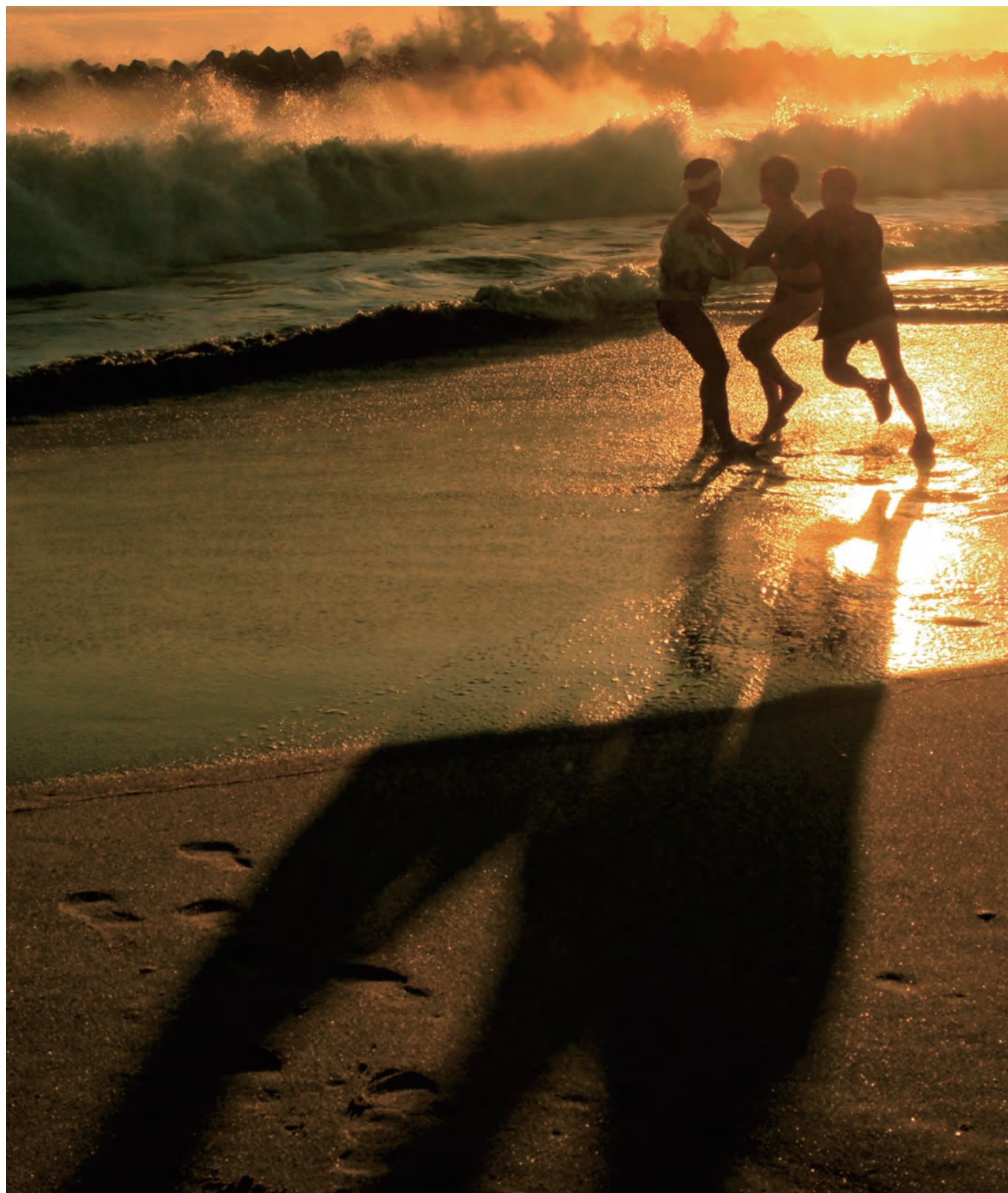
No. 67

2023年1月31日発行

TAKE FREE

コンテンツ

新年のご挨拶、コラム、リハビリテーション部のはなし、施設課のはなし
ニュース、新任医師紹介



新年のご挨拶

病院長 近藤 匡



新年明けましておめでとうございます。

2018年4月に赴任してきて早いものでまもなく6年目が始まります。医師不足の対応に追われる日々は続いております。

着任当初は、茨城県修学生医師の修練受け入れ施設となれるように、筑波大学や水戸協同病院との連携を任されていたのですが、1年後の2019年には県の修学生派遣ルールが打ち切られる事態となりました。外科は4名体制でスタートしましたが、

在籍していた修学生医師が異動したあとは専攻医の派遣ゼロ、専攻医がいない病院には指導医も派遣されません。そのため外科常勤医師は1名と病院長の2名体制のまま。麻酔科は当初より非常勤医師だけのシフトで定時手術・緊急手術に対応していません。一方で内科は修学生医師の派遣実績はありませんでしたが、応援派遣については2016年から主として水戸協同病院から、2021年からは県内の厚生連他から継続されており、救急車受け入れや病棟診療が継続することが可能となっています。整形外科は専攻医プログラムに地域医療が必須とされていることもあり指導医2名専攻医2名の体制で変わりありませんが、産婦人科は4名でスタートしましたが、1月1日現在で常勤医師2名。急遽1名リクルートしたところですが安定した見通しではありません。

ところで。病院当直の半数は筑波大学大学院生で、産科当直も半数近くは県内外の非常勤医師の応援でなんとかシフトを組んでいるところ。常勤医師だけでは到底埋められないところまで人数が減っているからです。その非常勤医師らが翌日も勤務ができるようにするためには当院が「宿日直許可」を取る必要があります。何よりも労働者の健康が第一ですから、十分な夜間の睡眠と、適切な勤務インテバルを取る必要がありますが、夜間に救急車を受けられない、夜間にお産が出来ないとは言えないため、今後は地域病院との連携をすすめていく必要があります。果たして諸家の言う通り「医師働き方改革は地域医療を潰す」のかどうか当院のチャレンジは続いていきます。

Takahagi Fresh News.

院内学術会の最優秀受賞について

2023年1月4日、第18回院内学術大会の授賞式が行われました。厳正な投票の結果、小職の発表が最優秀賞に選ばれ、病院長から表彰状を授与されました。



今回のテーマは「健診受診者の二次検診に対する意識調査―受けっぱなし受診にしないために―」です。予防医療の重要性は、まず自分達の意識を変えることを、研究を通し訴えかけました。

健康管理センター 磯野 美雪

column

医療にまつわるちょっといい話

健康管理センター

「受けっぱなし受診にしないために」

健康診断で「要再検査」などの結果が出たら

健康診断などで「要再検査」などの結果が出ても、「時間がない」「様子をみたい」「自覚症状がない」といった理由で放置している方が少なくないようです。

ただ、せっかく時間をつくって受けたものですので、その結果を活かした対応により、ご自身の健康維持・向上に役立てましょう。もちろん、病気が隠れている、という可能性もあります。

要経過観察、要再検査、要精密検査、要治療といった指示は、必ず守りましょう。

健康診断の再検査は必要？

企業の健診では強くすすめることと法改正がなされています。

再検査は、義務ではなく任意です。会社で受けた健康診断であっても、再検査に行かなかったからといって指摘されることはないでしょう。

しかし、再検査は、「生活習慣病やその他さまざまな病気を早期に発見できるチャンス」です。あるいは、「再検査で問題がないことが分かり安心できるチャンス」とも言えるでしょう。

ご自身の身体のご自身が一番気をつけてあげなければなりません。

10年後の自分を作るのは、今の自分です。今一度、健康診断の結果を確認して、自らの健康の保持増進に努めましょう。



Dept

「リハビリテーション部のはなし」



当院のリハビリテーション部は理学療法士6名、作業療法士5名、言語聴覚療法士1名、助手1名で業務に励んでいます。主な対象患者さんは整形外科、内科、外科での入院や整形外科の外来でリハビリテーションが必要とされた方となっております。

近年のリハビリテーションでは、早期離床（手術などを行ったのち、早期に座位・立位・歩行を行うこと）が重要視されています。手術をされた患者さんは術後の痛みで動くことができず筋力や体力の低下をきたす*ことがあります。それだけでなく手術の侵襲や麻酔等の影響で痰が溜まりやすくなり、それが

原因で肺炎などの呼吸器の合併症を引き起こすことがあります。早期リハビリテーションによってそれら合併症の予防や筋力・体力・認知力低下の軽減ができれば、入院期間を短くできることもわかってきました。

入院・手術直後は身体を動かすことに不安もあると思いますが、私達リハビリテーションスタッフが精一杯サポートさせていただきます。

*筋肉は使わないと簡単に減っていきます。ベッドに寝たきりの状態では1日に3〜6%、1週間で10〜15%程度、3〜5週間で約50%の筋力低下がおこるとの報告もあります。



上肢機能訓練の準備

「施設課のはなし」

Dept



医療資材の発注を行い、各部門へ払い出しを行う。

施設課は、文字通り施設整備・管理及び資材供給を行う部門です。患者さん、病院職員が安全で快適に過ごせる環境を提供すべく業務を行っています。常時、患者さんに良質な医療を提供するためには、施設設備の適切な管理・整備が欠かせません。日々の植栽の管理から電気系統・ボイラーの点検・整備、法令で定められた点検業務と関係省庁への報告など、長期にわたって適切な療養環境を維持できるように、日々業務にあたっています。

私たちが、直接患者さんに関わることはまれですが、施設設備等で環境を整えることにより、医療を支えることに努めており、幅広い範囲の業務を受け持っています。

●日常点検

- ・電気、ガス、水道、燃料、液体酸素等検針等の管理
- ・各設備巡回点検（ボイラー設備、空調設備等）
- ・敷地内の環境保持

●修繕作業

- ・車椅子修理、空調機フィルター交換、その他簡易な修繕
- ・給排水設備、電気設備、医療ガス設備、消防設備、その他インフラ設備の修繕

●医療材料や備品購入

- ・事務用品や日用品の購入
- ・医療用の材料や備品の購入
- ・大型の医療用器機の購入

●その他

- ・災害、防災訓練など



Takahagi Fresh News.

訪問看護ステーション「てつな」開設



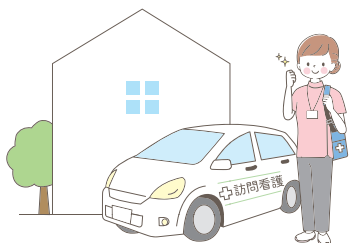
2023年1月

5日より訪問看護ステーションが開設いたしました。

利用者さん、ご家族の温かい『ありがとう』の言葉をいただけるよう、日々、努めております。病気や障害をもった方々が、住み慣れたご自宅で自分らしく前向きに生きる強さを学ぶことができ、

訪問看護師として経験や財産となり成長させて頂いています。

一人一人の思いに寄り添いながら、今日も笑顔で真心のある温かい看護を届けていきたいと思えます。



訪問看護ステーションの場所は玄関ホールから一番近くわかりやすい場所にありますので、ご質問等の際は、お気軽にお声がけください。

看護師 鈴木 玲子

NEW COMER

— 新任医師紹介

産婦人科医師
大原 浩子

出身大学：埼玉医科大学
出身医局：筑波大学
趣味：海外旅行

以前も高萩協同病院には、3年間勤務させていただきました。また外来、病院、手術、お産といろいろな経験をさせてもらえて本当にありがたいです。事故なく、安全にこなせるよう精進していきます。



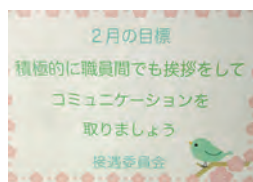
看護部卒後2年目・3年目看護研究発表会

知識・技術の向上はもとより、倫理観をもって看護実践に繋げることは卒後1年間の教育では難しく、看護師としての責任において患者さんと向き合い、意思決定し、患者さん・ご家族の支援が行えるようになることを目標に掲げています。目標達成に向けて、どう学び看護実践していくのか。

人生の中で、最も影響を受け、また大きく延びる時期でもあります。悪戦苦闘しつつも、立派に発表しました。

看護部長 菅澤 裕子

2月の職員目標です。



発行所：県北医療センター高萩協同病院
 発行人：近藤 匡
 編集：広報ふれあい委員会
 編集協力：JA 茨城県厚生連総務部

〒318-0004 高萩市大字上手綱字上ヶ穂町 1006 番-9
 Tel : 0293-23-1122 takahagi-kyodo-hp.jp/